平成２８年度社会教育・公民館等職員研修会Ⅳ

日時：平成 28 年 12 月 2 日（金）10:00～15:45
会場：県行政庁舎　講堂

〔ねらい〕

自治体と住民が公民館の在り方を協議している事例から，これからの公民館等社会教育施設と職員の役割について考える。また，住民主体による地域づくりを促進させる手法を学びながら，地域づくりにおける社会教育の役割について考える機会とする。

〔参加者〕

市町村等教育委員会職員，公民館等社会教育関連施設職員，社会教育主事等社会教育関係職員等
９０名

〔内　容〕

午前：講話「住民と職員でつくる公民館等社会教育施設の将来像」
事例発表１
：名取市教育委員会生涯学習課　主査　中山　　透　氏
事例発表２
：貝塚市中央公民館　職員　中川　知子　氏
シンポジウム（会場全体で）
コーディネーター
：東北大学　准教授　石井山　竜平　氏
午後：講話・ワークショップ
「これからの地域づくりを考えるチームビルディングの手法」
講師：特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク
事務局長　髙橋　由和　氏
東北大学　准教授　石井山　竜平　氏

受講者アンケートから

１　本日の研修をどのように受けとめ，今後に生かそうと考えていますか。

・　現在進行形の実践的な事例と共に，その未来形の一つであり，理想の形と言える事例が示されたことが心に残った。
・　成功事例の発表が多い中，困難を抱えている事例を発表していただき，珍しい研修となったように思う。現場は，今回のような話を聞きたいと思う。
・　公民館を取り巻く環境は変化しており，職員の構成ひとつとっても，指定管理者，行政職，さらにはその中でも，ＮＰＯや財団，地域団体，正職員，嘱託などと多岐に渡っている。これらがうまく絡み合い，よい意味での相乗効果とならないといけないと考える。
・　高齢者，若者，女性，子ども，といった様々な人々が，企業，ＮＰＯ，住民等とつながり，Win-Win の関係を生む方法は無限にあることを学ぶことができた。

・　すべての人に地域で生きる目的をつくっていることは，すばらしいと思った。
・　職員と利用者の関係が大事であると改めて感じた。機械的，事務的作業だけでなく，人と人との関わり，ふれあいが公民館には特に必要だと思う。
・　午前，午後の内容を通して感じたことは，「人間関係」「関係づくり」が大切であるということである。職員と利用者との関係ができていなければ，「しゃべり場広場」のような場をつくることは困難である。進んで地域に出て，地域，利用者の方と会話することで，公民館のこれからを考えていきたいと思った。
・　講座の計画について勉強になった。関わる者全員でひとつのものを創り上げて行く喜びが必要だと思った。
・　本当の意味で住民と対等な意見交換が行える場所が重要であると感じた。また，話し合いで終わらせるのではなく，実践できる職員を目指していきたい。
・　住民との話し合いを大切に，今後の事業をつくっていきたい。また，職員の意識の共有について，難しさもあるが，大切なことであるので根気強く取り組んでいきたい。
・　職員同士で話し合うことを実施できていなかったので，今後，そのような場をつくり，話し合うことが大切だと思った。
・　住民にとって公民館がどのような存在であればよいのか，公民館のあるべき姿について，住民のニーズを把握していかなければならないと思う。

2　今年度，県内の社会教育関係職員の方々が実行委員として企画・運営した研修会に参加して，いかがでしたか。

・　自らの学びをつくり上げていくということは，まさしく我々の本分であり，有意義なことであると思う。
・　社会教育関係職員の方々が実行委員であるので，体験や意見を聞くことができ，たいへん参考になった。
・　社会教育，地域づくり，公民館事業等に長い間携わり，実践してきた方々の考えや取組にふれることができ，たいへん勉強になった。
・　企画，運営に参画することは，たいへんよいことだと思う。現場第一主義につながるものと思う。
・　Ⅰ～Ⅳの研修を受講し，様々な事例，方法，ワークショップを体験し，自分なりの社会教育の引き出しを増やすことができた。
・　現場に直結する具体的な内容が盛りだくさんの研修会になった。
・　受講者の立場から，学びたいテーマや講師が選出されていると感じた。